

5. 学習田とひまわり畑における地域教育活動

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 中澤 朋代

(1) 活動内容と成果

本学の農地として借用する0.6haの畑地管理、および、地域内の水田の作付けを通じて、地域連携、学生教育を行った。水田については、16年以上にわたり本学科の教員が窓口となっており、大学周辺で稲作の実習をJA 青年部にご指導いただき、もち米の作付けを講義の一部として本年度も田植えと脱穀を行った。同時にJA 新村青年部の「担い手育成」の活動も兼ねており、「自然と産業」の授業において田植え、「食材と農業」の授業において脱穀、餅つきを行い、地域理解と自然環境、地域資源開発に対する実習と位置付けた。餅つきは機材を借りた新村保育園をはじめ、会場を借りた新村支所や福祉広場との交流になり、学生の地域への理解が深まった。また、田植え、脱穀についてはJA 新村青年部、JA 松本ハイランド新村支所に準備及び指導のほか、グループワークに対応いただき、農業に対する学生の理解がより深まった。

また、6月以降は総合グラウンド横の農地について、大学管理の一環としてひまわりの作付けを委託し、8月上旬オープンキャンパスに合わせて満開とした。大学広報での利用のほか、5月からは「社会活動」の授業と絡め、有志を含む学生グループによるイベント企画運営を指導した。近年、アルピコ交通の電車のヘッドマークに掲載され、ニュースでも取り上げられるなど「新村のひまわり」の知名度は上がっており、大学ホームページ等への開花案内の作成や、ひまわり祭を行う際にアルピコ交通や丸山菓子舗等の周辺事業者とのコラボレーション企画も、学生が主体となって行った。新村保育園の美術展の協力に際しては、実際に園内に別途ひまわりの植え付けに学生が出向き、園児と交流しながら身近なひまわりを見て作品を作ってもらった。学生はすべての問い合わせ、打合せ、渉外などを自ら行うことにより、様々な社会経験をした。これらの成果はループリックによる自己評価・他者評価により明文化した。

併設する教育農場については、ひまわり畑に隣接する一反程度の圃場を自然農法により学生個人に区画を割り当て、「グリーンツーリズム」、「食材と農業」

の一環で利用した。学生の反応や理解は高まっている一方で、夏休みの圃場管理が課題である。



学生企画運営による「ひまわり祭り」のチラシ



満開となったひまわり



「ひまわり祭り」露店